

漢字仮名まじり文 (ファイル No.20)

「俳句は日本の詩である」

この文章の漢字はすべて音読みの外国語(中国語)ですから、「HAIKUはJAPANのP.O.E.Mである」と同じように、外国語と仮名を織り交ぜた日本文といえます。一方「古池やかわず飛びこむ水の音」に使われている漢字は全部が訓読みですから、漢字が混じっているとはいえ、本当の日本文です。

以上のことは、こだわって言えばということですが、現代日本人に、漢字が外国の字であるとの認識はあまりないでしょう。私たち日本人は、まるで空気のようになり、あたりに漢字仮名まじり文を読み書きしています。カタカナ表記の外来語、ABCのアルファベット、123のアラビア数字などが時に混じるとはいえ、日本文は基本的には漢字と仮名で書かれます。その、漢字仮名まじり文にも紆余曲折がありました。

◎漢字廃止、ローマ字論

小学校で習う漢字は、全部で一〇〇六だそうなんです。それだけでは大人としては不十分ですから、二〇〇〇以上の漢字を憶えなければ、満足な日本文を書く

ことは不可能でしょう。アルファベットを使う人々はいえ、英語ならAからZまでの二六文字で、どんな文章も綴れるのです。面白いことに中国の知識人の中には、漢字を押し付けたとして、それを悔いる人も少なくないのです。外国人から見れば、漢字仮名まじり文は世界一複雑で不便なものであるようです。

外国人は「二〇〇〇以上の漢字を憶えなければならぬ日本人は気の毒だ」と思うでしょう。日本語を習おうとする外国人も苦勞します。そこで浮上するのがローマ字論、漢字廃止論です。

日本語はローマ字で書けるから、ローマ字に馴れれば問題ない。これが、アルファベット使用国民の平均的な感覚と思われる。漢字廃止、日本語ローマ字化論が現実の問題として浮かび上がったのは昭和二十一年二月のことでした。戦後、占領下の日本を訪れた米国教育使節団が占領軍司令官に、ローマ字による日本語改革を勧告したので。同じ年、志賀直哉はフランス語を日本語とすることを提唱しています。

似たような論は過去にもありま

した。郵便制度の創始者である前島密は慶應二年、將軍・慶喜に「漢字御廃止之議」を提出、明治五年に後の文部大臣森有礼が英語を日本語とすることを提唱、同六年には福澤諭吉が、最終的には漢字全廃をめざす漢字節減論を主張しました。その後、も同様の論は続出しましたが、逆に漢字、漢字仮名まじり文を擁護する論も展開されました。擁護論がなければ、日本語はローマ字になっていたかもしれせん。

◎日本人としての自覚

漢字仮名まじり文は、外国人が思うほど不便でどうしようもないものでしょうか。外国人が憶えるのに時間がかかるという欠点もありますが、利点も多いのです。まず、読みやすく分かりやすいのです。読む速度も驚くほど速く、これほど読みやすく分かりやすい文章は他に類例がありません。外国人が憶えるのに苦勞するのは、どんな言語も同じでしょう。漢字仮名まじり文は、憶えやすく忘れにくいといえます。その証拠が識字率です。日本人の識字率の高さは昔から世界のトップでした。漢字仮名まじり文が便利すぎたため創造の必要性さえ感じさせなくしてしまった、という意見もあります。ただ、漢字仮名まじり文は、自身が日本人であるあることを自覚するために必要であることは疑いようがありません。

ガラストップ ガスコンロ販売中!

7年リースなら...
標準工事費無料!
7年間メーカ保証付!



7年リース
(税込) 月々 780円から

健康ライフ

こむら返りとカリウム
基本は健康的な食生活



運動中や睡眠中、ふくらはぎの筋肉が収縮・けいれんして痛みを伴うのが「こむら返り」。同じような筋肉のけいれんは、太もも、足の裏などにもおこります。腎臓や心臓の病気、糖尿病、腰椎の病気などが原因でおこることもありますが、原因の多くは筋肉の疲れ、冷え、運動不足などです。

原因のひとつと考えられるのがカリウム不足。予防には、カリウムやカルシウムなどの電解質を摂取することです。野菜や果物、海藻、牛乳、小魚などをバランスよく食べること、バナナにはカリウムが多く含まれます。ただし、カリウムの取りすぎも問題があるので注意。色んな病気についていえることですが、基本はバランスが良い健康的な食生活。

★カボチャのカラシ和えサラダ★

〈材料〉カボチャ、タマネギ、リンゴ、他

- ①カボチャは1口サイズに切り、電子レンジ500Wで4~5分(硬め)、冷やす。タマネギみじん切り、リンゴ1口サイズ。
- ②これにハム、干しブドウ、キュウリなどを混ぜコショウ。
- ③マヨネーズ、カラシ、を和える(酢・砂糖少々)。材料や調味料は好みで調整。



「わが家の自慢料理」にふるってご応募くださるよう、お願いします。採用された方には図書券をプレゼントします。

わが家の自慢料理
〈滋賀県彦根市 福江千恵子様〉